I. ベトナム国家大学(ハノイ)人文社会科学大学への教員派遣事業

1. 派遣教員

派遣教員	水垣　源太郎	奈良女子大学研究院人文科学系人文社会学領域　准教授
研修生	関　春菜	奈良女子大学文学部人文社会学科４回

2. 派遣期間および現地での活動

9 月 5 日（金）　～　9 月 12 日（金）8 日間

3. 概要

平成 26 年 9 月 7 日（日）～9 月 11 日（木）の日程で、ベトナム社会主義共和国ハノイ市を訪問し、ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学東洋学部日本学科（Department of Japanese Studies, Faculty of Oriental Studies, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University, Hanoi）において、「日本の近代化および経済成長と社会生活の変化」と題する集中講義を行った。

訪問にあたって、東洋学部長　Le Dinh Chinh 教授、副学部長 Pham Thi Thu Giang 准教授には特別のご配慮をいただいた。とくに日本学科講師 Duong Thu Ha 氏には、多大な援助を得た。現地の先生方のご厚意に深く感謝する。またアシスタントとして同行していただいた関春菜氏には、学生交流会において書道教室を実施していただくとともに、現地での資料収集や整理、講義資料の作成などの補助をしていただいた。

4. 講義概要

講義は、9 月 8 日（月）～10 日（水）の 3 日間、それぞれ 08：00～17：15（ただし 10 日は 08：00～09：30）に、「日本の近代化および経済成長と社会生活の変化」と題して行った。講義は日本語で行い、資料は日越併記で作成した。

この授業の目的は、現代日本人の社会生活とライフスタイルを理解することである。そのためにまず、（１）日本において広く行われている各種の世論調査データや、近年の国際比較調査データを用いて、アジア諸国と比較しながら、現代の日本人の意識と行動の特徴を明らかにする。（２）日本の近代化と高度経済成長がもたらした日本人の社会生活の変化（家族、学校、仕事、地域社会、消費など）の変化について説明し、現代の日本人の意識と行動の特徴がこうした変化の結果であることを示す。（３）そうした変化の中で、日本の伝統的な文化や技芸はどのように受け継がれ、維持されているのか、また若者文化がどのように影響を受けたのかについても講義した。具体的な授業計画は次のとおりである。

講義の第一日目前半では、導入として講師の経歴を紹介し、とくに 1970～80 年代の私的経験を日本の社会変動と関連づけて話した。受講生の関心が高い現代日本の若者文化についても触れた。次に、過去に行った社会調査や世論調査を題材として、社会学とは何かについて概説した。後半は、映画『三丁目の夕日』を鑑賞した。

第二日目前半は、まず明治以降の日本の社会変動を 2 つの近代化(明治維新と戦後改革)

と高度経済成長の３段階で理解する枠組みを紹介し、とくに高度経済成長に焦点をあてて、人口、産業、教育の変化を説明した。後半では、そうした社会変動に伴う暮らしとライフスタイルの変化について、職業と仕事、都市と農村、家族と親族、学校生活、生活水準の上昇と消費生活、少子高齢化と世代間格差、年中行事と慣習、宗教などの諸側面から解説した。最後に、現在の日本人の意識がおおまかに３つの世代によって異なることを論じた。最後に、筆記試験を実施した。

第三日は、前日の試験について解説を行った。その後、関春菜氏による本学の紹介と学生交流会（書道教室）を行った。書道教室では、筆、半紙、墨汁などを日本から持参した。まず、日本人の生活や芸術と書道の関係、臨書と創作などについて概説した後、実際に道具に触れてもらいながら、書くときの姿勢や筆の持ち方、書き方を解説した。とくに「永」の字を題材として、書道の重要な基本となる８つの動作、①点、②横線、③縦線、④はね、⑤はね上げ、⑥左はらい、⑦短いはらい、⑧右はらいについて学んでもらった。

5.　評価

5-1　講義について

今回の講義については、参加学生からはもちろん、参加していただいた先生方からも高い評価をいただいた。とくに書道教室は好評であり、書道を通じて日本文化への理解と関心を深めてもらえたことと思う。講義に対しても現地学生の意欲は高かった。とくに、会話の能力は高く、上映した日本映画も日本語字幕があればほぼ理解できており、笑うところで笑いが起きていた。また筆者および同行学生には、その場での交流にとどまらず、SNS を用いた継続的な会話の機会が形成された。こうした教育交流が今後も継続されることを強く期待する。

5-2　同行した研修生による評価

奈良女子大学　文学部　人文社会学科 4 回　関　春菜

9 月 7 日から 11 日の 5 日間、ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学東洋学部日本学科で集中講義を行う水垣先生に同行し、昨年に引き続き講義の補助、学生交流を行いました。私の主な任務は授業の最終日である 9 月 10 日の学生交流会での書道教室の運営でした。

書道教室の概要は、①日本人にとっての書道とはどんなものかについて、事前に用意したパワーポイントを用いて説明してから②実際の体験として練習をし③最後には半紙と墨を使って学生の皆さんに清書してもらうという流れです。

まず、日本における書道の芸術としての面や生活の中で使われる場面などについて説明していきました。加えて、私は学内の書道部に所属していますので、その展覧会の写真を用いながら作品を作るという楽しみ方があることについても触れ、伝統的な書体やその移り変わりについても紹介しました。

練習で使用したのは水で書ける半紙と書道用の筆です。半紙は一人 2 枚、筆は一人 1 本配布しました。はじめに書くための姿勢・筆の持ち方について説明してから、「永」の字の練習に移りました。この字は、楷書を書く際に使用するすべての技法を含んでいるため、初心者が練習するにはふさわしい字とされています。一つ一つ、筆の運び方を説明しながら、そのあとに一画ずつ練習してもらう形で進めました。すべての説明が終わってから、受講者を見て回り、良くできているところを指摘しポイントを絞ってアドバイスを加えていきました。予定では「永」の字を練習して清書することを考えていたのですが、慣れてくるにつれて好きな漢字や自分の名前を書く学生が増えてきたため、それについてもアドバイスしながら筆を一緒に持って書き、感覚を掴んでもらうよう心がけました。

しばらく練習を続けてから、呼びかけて清書に移りました。前方に 2 カ所、半紙と文鎮、墨、硯など本格的な書道セットを用意し、順番に書いてもらいました。共通して大きく・太く書くようにアドバイスしながら、一枚自由に書いてから私と一緒に筆を持って書き、もう一枚書いて完成としました。最後には自分の書いた半紙を持って集合写真も撮影していただきました。

最初は遠慮がちだった学生の皆さんが、だんだんと積極的になっていく姿を見て、大変嬉しい思いでした。私のことを「先生」と呼んでくださり、書きたい字についてどう書けばいいのかとどんどん質問してくださったので、活気のある体験の時間になったと思います。書道の指導をするのは初めてでしたが、水垣先生や学生の皆さんのおかげでスムーズに進めることができました。また、日本から持ち込んだ道具以外に必要な物は、奈良女子大学書道部 OG でもある人文社会科学大学のザン先生・学生さんに手配して頂きました。国際交流センターの先生方にも、様々な手続きで大変お世話になりました。今回の滞在では、今までの自分の書道経験をいかして多くの人たちに楽しんでもらうことができて、私自身も大変楽しい時間を過ごすことができました。このような機会を与えて頂き、ありがとうございました。

III. 経済社会生活の変化

永

永

蘭
心
海
雨
明
家
愛

日本の近代化および経済成長と社会生活の変化

Modernization, Economic growth and the change of social life in Japan

水垣　源太郎　Mizugaki Gentaro
（奈良女子大学・社会学）

【授業概要】

この授業の目的は、現代日本人の社会生活とライフスタイルを理解することである。そのためにまず、（１）日本において広く行われている各種の世論調査データや、近年の国際比較調査データを用いて、アジア諸国と比較しながら、現代の日本人の意識と行動の特徴を明らかにする。（２）日本の近代化と高度経済成長がもたらした日本人の社会生活の変化（家族、学校、仕事、地域社会、消費など）の変化について説明し、現代の日本人の意識と行動の特徴がこうした変化の結果であることを示す。（３）そうした変化の中で、日本の伝統的な文化や技芸はどのように受け継がれ、維持されているのか、また若者文化がどのように影響を受けたのかについても講義する。

【授業計画】

はじめに（導入）：自己紹介と授業の概要

１．現代日本人の価値観と行動：各種の世論調査から考える

・結婚、仕事、家庭、子ども、生活目標、人間関係、宗教観など

・年中行事と贈り物

２．２つの近代化と高度経済成長

・2 つの近代化：明治維新と戦後改革

・高度経済成長と人口、産業、教育の変化

３．暮らしとライフスタイルの変化

・職業と仕事、都市と農村、家族と親族、学校生活、生活水準の上昇と消費生活、少子高齢化と世代間格差、年中行事と慣習、宗教など。

・若者と伝統：部活と習い事

４．若者文化の変容

・暮らしの変化と子どもの遊び

・世代と価値観

５．試験と解説

６．奈良女子大学の紹介と書道体験

人文社会科学大学東洋学部日本学科・試験問題（水垣源太郎）　2014年9月9日

学年/クラス（　　）　氏名（　　）

問１　次の（１）～（５）の各記述内容がすべて正しければ〇を、誤りが含まれていれば×を、それぞれ【解答欄】に記入しなさい。

（１）1960年代の高度経済成長は、日本人の暮らしを大きく変化させた。それまでの約1500年の間、日本の都市の人々の生活はほとんど変化しなかった。
（２）日本の高度経済成長は1973年の石油危機とともに終わり、それ以降、低成長が続いている。それとともに人々の価値観は変化し、人々は生活の質の高さよりも経済的な豊かさを追求するようになった。
（３）近代化とともに人口が増加するのは世界的な傾向である。
（４）日本では、近代化とともに第一次産業人口が低下し始めた。
（５）現在の日本は、第二次産業人口がもっとも多い「脱産業社会」の段階にある。

【解答欄】
(1)(　　)
(2)(　　)
(3)(　　)
(4)(　　)
(5)(　　)

問２　次の文章は、高度経済成長期に起きる人口移動（都市への人口集中）のメカニズムを説明したものであるが、文の順番を入れ替えてある。話が通るように、（ア）～（オ）の文を並び替えて、【解答欄】に記号を記入しなさい。

（ア）こうして都市の人口集中と地方からの若者の流出と過疎化、高齢化が起きた。こうした傾向は現在でも続いている。
（イ）一方、若者の働き口がない農村では人手が余っていた。
（ウ）しかし都市で新たに雇われたのは、従来は小さな商店や工場などで働いていた都市生まれの若者であった。そのため、都市の小さな商店や工場では人手不足が起きた。
（エ）そこで都市の商店主や工場主たちは地方の農村から若者を呼び寄せた。
（オ）第二次世界大戦後、都市では近代的な大工場が建てられるようになった。その結果、新しく雇用が創出された。

【解答欄】
（　　）→（　　）→（　　）→（　　）→（　　）

（以上）